



水質日本一の米どころ これが、今金町のプライド。



しりべしとしべつ 後志利別川の天恵 清流で育まれる今金米

今金町を東西に流れる清流「後志利別川」水質日本一を誇るこの川を中心に、今金町の水田は広がっています。若い生産者が多く、クリーン栽培への取組み、施肥改善、生産性向上、省力化栽培、秋すき込み推進、スマート農業の推進など意欲的な生産が行われています。

道南随一の農耕地をもつ 農業のまち

北海道の南に位置する今金町は、檜山管内で最大の農耕地を持つ農業のまちです。町の中央には全国一級河川水質調査で「水質が最も良好な河川」に最多選出されている後志利別川が流れ、道南の温暖な気候のもと、稲作や畑作、施設園芸、酪農畜産など多彩な農業が営まれています。

道内でも早くから開拓された地域であり、親から子、子から孫へと歴史を紡ぎながら生産者は真摯に大地と向き合い続けてきました。清流の恵みのもと、クリーンな環境で育まれた「安全・安心・おいしい」農畜産物たちは道内各地はもちろん全国に出荷され「今金ブランド」として高い信頼を得ています。



今金町を代表する作物「今金男しゃく」と近年生産を伸ばしているミニトマト

生産者とJAが 一体となった生産体制

水稲生産者の組織である今金町稲作部会が中心となり、JAや関係機関と協力のもと一体となって品質目標や適正な肥培管理、講習・視察などによる学習を通じて、良質で生産性の高い米作りを追求しています。「ふっくりんこ」「ななつぼし」「ゆめぴりか」の良食味3品種を中心に作付け。集荷した米は全量を玄米調製施設で色彩選別し、異物のない安全な米として調製。また収穫した米は全量低温倉庫に保管され鮮度を保ったまま出荷されています。

一方で生産性の高い米生産を目指し、業務用多収品種の生産にも力を入れており、生産者とJAで圃場の特性に合わせた栽培品種の選定に取り組んでいます。



コンタミ巡回前に今後の活動について話し合う部会役員

持続的な生産に向けた 今金町の米作り

今金町稲作部会では安全安心の米作りへの取組として「育苗巡回」「異品種混入（コンタミ）防止巡回」「適期刈取り判定」「スキルアップ研修」などに取り組んでいます。部会役員やクリーン栽培に取り組んでいる生産者は三十〜四十代が中心で、若く、新しいことを吸収し取り組む意欲の高い生産者が多いのが特徴です。基盤整備事業により圃場の大区画化が進められ、更にスマート農業に積極的に取り組むことにより人手不足を解消しながら生産性も向上させていくことに意欲的に取り組んでいます。またJAではパックご飯「今金濃米」を企画・販売。多様なニーズに応えるべく取り組んでいます。



JA今金町玄米バラ集出荷施設



JA今金町公式 YouTube では
地域農業の情報を発信しています